

伊豆オートマタ美術館前にて



### チャンプニュースレター110号 目次

○山本代表のメッセージ	.....	2
○アメリカよもやま話	山本儀子	3
○チャンプ4月例会報告	.....	4
○第4回本音の会報告	神田 順	4
○関西支部3月例会報告	藤原千恵	5
○第2回「これからの暮らしを考える会」	手島達夫	5
○第1回「日本を見てみる会」	.....	6
伊豆オートマタ美術館訪問	篠崎克子	6
○「産直の農産物を楽しむ会(仮称)」勉強会	中林由行	6
○NPO「支援センターあんしん」24周年	樋口 功	7
○活動会メモ	.....	8
○90歳を迎えた私の卒寿感	増田美智子	8
○今後の活動予定	.....	8

# 山本代表のメッセージ



:Dear CHAMP Members and Members to be :

皆様お元気にお過ごしでしょうか？ 春爛漫、桜満開の日に私はこの原稿を書いています。

2026年4月、頭上から爆弾が飛んでこない平和な日本です。きっとこれ程平和で安全な国は現代の世界では例外的な存在でしょう。本号で私は<平和>について見直してみたいと思います。2026年は第二次世界大戦終了後丸80年です（後20年で1世紀です！）。この80年という年月で私達はどれ程に学び・成長したでしょうか。科学技術は進歩しても、人間はいかほどに学び・成長しているでしょうか。

2026年2月28日アメリカとイスラエルがイランを攻撃しました。AIの先端技術を駆使し数秒間に1,000カ所以上を空爆という電光石火の如き破壊戦略でした。2025年6月イスラエルによるイラン先制攻撃後、トランプ米政権がバンカーバスターを用い空撃参加して以来の戦争行為です（今回の先制攻撃の理由と目的などは本号「アメリカもやま話」を参照して下さい）。2/28のトランプ大統領の“2～3週間で終結する”という宣言とは裏腹に戦争は続き、4/08の2週間停戦合意も内容に食い違いが判明し実施は不透明です。更にトランプ大統領の国際法を無視した数々の声明が米国内の支持層を揺るがしています。

イスラム教とユダヤ教など宗教が中枢にある闘いは短期間に終わるものではないでしょう。トランプ氏の<Peace through Strength 力による平和>は時限爆弾を抱えているようなものです。自国が開始した戦争であるにも拘わらず、トランプ大統領は11月の中間選挙を意識して<<ホルムズ海峡は石油を必要とする国が自力で守れ>>と責任放棄しています。

**日本はどうすべきでしょうか：**それは「外交」です。日本はアメリカとイラン両国に対話できる稀な立場ある国です。幸いイランとは長年親日関係が維持されています。遡れば1953年の日章丸事件・出光左造氏の果敢な行動と貢献があります。平和を他国任せにせず、信念と熱意をもって<説得外交>する時です。備蓄油放出が優先ではなく、近い将来直面するエネルギー不足に注意を喚起し、エネルギー節約に注力することが肝要でしょう。

**チャンプの未来：**災害と戦争のような人災が絶えない世界だからこそ、経験と知識を活かして自身の向上と社会貢献を目指すチャンプには多大な可能性があります。なぜなら行動を起こすのは、或いは起こせるのは私達自身だからです。健康に留意し自分を大切に、何が自分を幸せにするか、どうすれば生きがいのある人生を生きれるか、ぜひ積極的に考えてみましょう。聖路加国際病院の故日野原重明先生の「新しいことにチャレンジするという気持ちに、年齢制限はありません」という言葉に私はいつもカづけられています。

チャンプ例会：関東では4/18土曜日に新橋の生涯学習センターで開催（神田順先生の東北釜石での復興プロジェクトのお話：本号4P参照）、関西では6/18木曜日に大阪「文蔵」で開催します（本文8P参照）。

Best wishes, 山本儀子 Noriko Yamamoto  
ホームページは「チャンプの会」で検索：  
メールアドレス info@champuniversal.com



（川崎市「二ヶ領用水」の桜）

今アメリカは且つてない程の分断社会に直面しています。2025年1月20日にトランプ氏が大統領に再就任して以来、同氏の法律を無視した独断的政策に世界は振り回されています。そのような中、2月28日土曜日にアメリカとイスラエルはイラン攻撃を開始しました。AI等の最新技術を駆使した即効力と戦果をもたらす戦略でした。

アメリカとイスラエルの攻撃目的とは、①イランの核・ミサイル開発の阻止、②現体制の転覆→ハメネイ最高指導者86才の殺害（2/28同日）というものでした。3/09日曜日イランはハメネイ師の次男モジタバ・ハメネイ56才が最高指導者に選ばれたと報道しましたが、同師の軍事的・政治的経験は定かではありません。その後アメリカとイスラエルの攻撃が更に激化して、イランはホルムズ海峡のほぼ全面航行阻止を実施しています。しかし戦況はトランプ大統領が当初見込んだように早期解決のメドが立たず、トランプ大統領は3/14日曜日にアメリカの同盟国にホルムズ海峡への艦艇派遣を要望しましたが、ドイツ・フランスやイタリアは拒否表明し、トランプ氏は欧州側の反応に不満を公けに表明したのです。更にトランプ大統領はホルムズ海峡の開放は利用諸国（欧州に限らず、中国、日本など）が自力で達成すべきであり、アメリカは海峡通過を必要としないとまで発言しました。11月の中間選挙を控え、支持率が低下傾向にあるトランプ大統領は戦争の継続か終結か、いずれも難しい立場にある現状となっています。

トランプ支持者と非支持者双方の意見はまさに分断・相反する考え方です：

トランプ大統領のイラン攻撃支持者は<核開発中止に関してアメリカはイランに十分な時間を与えた>、<このまま放置すればイランは必ずイスラエルを破壊し、アメリカを核兵器で攻撃する>ので、今こそイラン攻撃の時だ、という意見です：一方、イラン攻撃反対者は<今回の攻撃は国際法違反であり、直ちに中止・撤退すべきだ>、<アメリカに王様は要らない>、など分断が明白です。印象的だったのは元民主党大統領候補Sandars氏の発言です＝米国民はベトナム戦争の時にウソをつかれ、イラク戦争の時にもウソをつかれ、今回もウソをつかれている。トランプはこれ以上終わりのない戦争はしないと公約したが、それもウソだった、と。

皆様はこれからアメリカはどのような方向に行くと思われますか？

トランプ氏の言動は<戦争犯罪>に等しい、という批判が聞かれるようになりました。自由と平等を求め、250年前に新大陸に到達した人々の願いと夢が試されています。

★RealClearPoliticsの最新データ

(3/12~4/5)です：

トランプ大統領の任務評価：

承認 40.9% 非承認 56.8%



# チャンプ 4月例会報告

日時 : 2026年4月18日(土) 10:00~12:00  
会場 : 港区新橋生涯学習センター304号室  
参加 : 会場参加17名、ZOOM参加3名

- 10:00 安斉運営委員長の開会挨拶
- 10:05 山本代表のスピーチ  
アメリカの最新の統計データ(人種構成、年齢構成、住宅ストックと流通、宗教信仰、教育、政治信条、経済規模など)を背景としてトランプ政権を解説。
  1. 戦略なきテイル&権力の乱用によるアメリカの孤立
  2. 加速するアメリカの自己崩壊、失われる言論の自由
  3. 多くの国際機関からの脱退による自国優先主義
  4. イラン攻撃には国内からも多くの批判が出ているが支持する意見も根強くあり、分断が深まっている。
  5. 10月の選挙の行方はまだ予断を許さない。  
(本号3Pの「アメリカよもやま話」も参照)

●10:30 会員スピーチ 神田 順  
テーマ「三陸漁業集落の大震災からの復興まちづくり」(神田先生は建築構造学の専門で、東京大学教授・日本大学教授などを経て、現在は活動の一つとして釜石市唐丹(とうに)町の震災復興まちづくりの活動を続けておられます。)

私はたまたまかなり昔に唐丹町小白浜(おじろはま)に縁があったので震災直後の5月に現地の被害視察をし、6月には東大神田研究室で被害調査



をすることになりました。それ以来現在までボランティアで小白浜での復興まちづくりのお手伝いをしています。活動の中心は住民のワークショップを開催して住民の総意によるまちづくり計画をまとめることです。「まちづくり意見交換会」は第1回2012年「子供達と絵描き、地域模型造り、宣言発表、第2回2013年「海の広場計画を市に提案」、第3回2014年「海の広場計画その後・まちの魅力」、第4回2015年「復興住宅入居アンケート、まち紹介冊子づくり」、第5回2016年「復興住宅居住アンケート、防潮堤再考要望書」、第6回2017年「さけ漁と三陸漁業問題」、第7回2018年「片岸地区の計画を市に提案」、第8回2019年「唐丹フットパスマップ作製」、第9回2023年「魅力かるたづくり」、第10回2024年「かるたワークショップ」、第11回2025年「3世代遊び場」と続いています。2017年には、まちづくりセンター建物「潮見第」を竣工させました。人口の減少、漁業の衰退などの課題がありますが、今後も唐丹町の環境、暮らし、産業などに即したまちづくりに協力してゆきます。

●活動会などの報告などがあり、閉会。(文責:中林)



## 第5回 新・本音の会 報告 神田 順

2月6日(金)13時から15時まで、お茶の水のA-Forumをお借りして、第5回「新・日本の現状を本音で語る会」を開催しました。今回のテーマは「大企業の基準違反」。梅澤、波田野の基調報告をもとに、7名の参加により、活発な本音で語る会となりました

梅澤は、13ページのレクチャー・ノートにまとめた「大企業に多発するCompliance違反について」をもとに、わが国の実態を整理して説明。日本製品は品質が売りだったが性能が確定すると製品基準が作られ、次にいかにコストを下げるかの競争が激化した。当面の売り上げ、利潤の最大化をねらう圧力が過大になって、たまに法令基準に違反しても、ということが、大企業でも生じるようになってるのが現実のようだ。当然、違反が発覚すれば、企業の信用も落ちて、損失も大きくなる。経営法友会では、分野ごとに対応を回ってきている。不動産業界では、誇大宣伝や説明のごまかしは当たり前だった。製造業でもスペックの捏造、サービス業では労働契約違反が当たり前ということになった。欠陥品のクレームに対するリコールは、自動車では一般的な制度となった。神戸製鋼の仕様書改ざんなどは、会社の組織ぐるみということもあって数十年にわたり、気づかれなかった。一方、そういうことがあると、罰則も強化され、フォルクスワーゲンの排ガス基準違反についての罰金は1兆円に及んだという。社員としては、会社の売り上げのためという大義もあって、自分の違反行動を許してしまうという、ある意味、人間の本質的な弱さが現れるということのようだ。経営者と現場の情報乖離という基本的な問題があり、仕事をするすべての人が、企業が何のためにあるか、社会にどう貢献するか、を考えると以外に無くなる問題であろうということである。

高橋も、競争しないと成り立たない以上は、時に無理な競争で、多少のリスクを犯すということも起きるとした。日本の場合特に、法体系が現状においっていないという面もある。

山本は、コンプライアンスということが、日本ではやたら叫ばれているが、アメリカではそのような言い方はあまりされず、

法令遵守を言い換えた和製英語のように思うとの指摘がされた。波田野も、東洋ゴムの免震ゴムの基準違反を例に今回の問題提起をした一人だが、企業内で教育ができていないし、基準の作られ方や基準そのものの意味がおかしくなっていないかとも指摘した。日本は、要求水準が厳しくそれが高品質を生んでいるのに、例えば、JISなども、世界に通用するような働きをしていない。もっともISOへの日本の貢献も少なくないし、日本グループの作ったISO基準も存在するのではあるが。

手島は、生産性の悪い部門は、切り捨てればよいという。効率の悪いまま、続けていることが、結果としてコスト高にもつながって競争力を失っているようなことが少なくない。特に、建設業にあてはまるということで、マンション建設価格の韓国との比較を例に挙げた。

國安は、基準と競争という製造業の問題に対して、基準の存在が意味をもたない伝統工芸の再評価を指摘。アメリカから入ってきたマニュアル化が人間を劣化させていることに通じている。自分の感覚をモノづくりの基本に置くことで、基準に添って作ることに重点が置かれることもなく、Complianceの問題も生ずることになりにくいはずではないか。

高橋も、それは、食品の賞味期限、消費期限にこだわることによる無駄の発生問題とも同根とした。

手島のマンションを安く作る大分方式という話から、姉歯事件に話が及んだ。これも、建築基準法の基準を守らない構造計算書の確認が何年かたって発覚して事件となったもの。実害もなかったのに自殺者が出たり、法改正にまで発展し、社会的影響はやたらに大きかった。市場としての過剰なコスト競争の問題、耐震基準と実態としての耐震性の乖離の問題、基準自体がダブルスタンダードであった問題など、すべてがからんでいる。

一部の企業内技術者が基準を守らないことがなくなることを見ると、社会のあり方、仕事の意味など、本質的な人間の生き方に行きつく。あっと言う間の2時間であった。

次回は、5月14日(木)13時から15時まで、テーマは、「憲法について」話題提供は、高橋と山本の予定です。

# 関西支部 3月例会報告

藤原千恵

日時： 2026年3月18日(水) 17:30～20:00  
場所： レストラン キエフ 京都祇園  
参加者： 山本代表、木下支部長、岡田さん、沖さん、  
加納さん、辻さん、増井さん、藤原 計8名  
(先月、関西チャンプ会員の長田伸一郎さんがお亡くなりになりました。  
長田さんのご冥福をお祈りし黙祷しました。)

## ● 山本代表の「アメリカよもやま話」

### 1 アメリカとイスラエルのイラン攻撃について

イランの現体制を転覆させ、核やミサイル開発を阻止するという目的だが、根底に相容れない宗教的対立があり、多くの日本人には理解しがたい所がある。

### 2 日本の立ち位置と日本国憲法の改正について

トランプ大統領が、同盟国に協力を求めたり、支援は要らないと言ったりと二転三転。18日の夜、高市首相がトランプ大統領との会談に向けて出発するというタイミング。はたして高市首相はどのように対応するのか？

日本には法的ハードルがあるがそれをトランプ大統領は理解しているのか？そして我々日本人も、80年前に制定された『日本国憲法』、特に第9条について改めて考える必要があるのではないか？

## ● 18:00 乾杯～食事

(会場のレストラン「キエフ」は、ロシア、ウクライナの料理を提供する店として、歌手加藤登紀子の父が1972年に開業。その前年に京都市とキエフ市(現ウクライナ・キーウ市)が姉妹都市になったことに因んで店名をキエフに。現在も加藤家がオーナー。)

参加者でロシアに行ったことのある人は加納さんお一人。美しい教会の建築を見に訪れたとか。

辻さんは、ヨーロッパ旅行でシベリア上空を飛んだ際、何らかの事情でモスクワ空港に着陸することになり、タラップ(まだボーディングブリッジのない時代)を降りた屋外はすごく寒く、空港建物内も寒かったというのが思い出。

お二人ともソ連時代の体験。モスクワ空港は、日本の地方都市の空港ぐらい小さかったよう。

沖さんは、15年程前に仕事でクリミア半島へ行ったとのこと。2011年頃はウクライナ領だった時だろうか？(ロシアによるクリミア併合は2014年)

木下さんにはひ孫が誕生。とてもお若い曾祖父さんに。少子化・晩婚化の現代に素晴らしい！

全員の近況報告はしなかったが、ロシア料理とウォッカやグルジア(現在のジョージア)ワインをいただきながら色々とはがはずんだ。時間となり集合写真を撮ってお開きに。



次回は6月18日の 17:30～ 大阪で開催 幹事は木下支部長にお願いすることに。

# 第2回 これからの暮らしを考える会

手島達夫

日時：1/28(水) 10時～12時 場所： 恵比寿JELAホール  
参加者： 山本 儀子、安斎 洋一、安斎 渥子、野村 一郎、山田 伸代  
梅澤 正巳、手島 達夫

## 第1話:手島より

私たち同年代は、1960年代中ごろに社会人となり、景気上昇期に働き、育児に専念し、バブル崩壊の景気後退も経験し、2000年前後に退職、今は幸福な生活を送っています。コツコツと預金を蓄え、投資に一度は失敗し、定期預金に絞り、年金を基本に生活しています。新聞の一般論で、老後生活では自己所有の住まいと退職金と預金だけでは、あと2千万円程度不足すると云われています。そこで提案ですが、

①金融資産の課税20.125%を無くしたNISAという商品があります。これで1800万円まで非課税できる制度を利用しましょう、という提案です。さらに、ファンドラップという商品もあります。定期預金だけでは物価上昇を考えると資産減少です。Champ活動資金や楽しみに使える資産を少し増やしましょう。

②もう一つ頭から離れない自分の生命が消える前後の願い事項のエンディングノート、ライフメモリーノート、又は安心箱を作って、このモヤモヤから解放して、楽しい生活をしませうとの提案です、

私は、病名告知、延命治療拒否、認知症・寝たきり症状後は子供たちに負担をかけたくないこと。そして死後は、子供と孫のみで直葬、海洋散骨で墓も不要。としたく、自分の履歴、思い出、お世話になった人々のリスト、家族への感謝の言葉などもメモにし、お礼状も作成しておきたい、などのリストをメモし、提案しました。上記①②を実施し、頭のどこかにモヤモヤした

事項を減らし、楽しい生活を送りませうとの提案をしました。

## 第2話 皆様とお話事項

①(野村さん) 弥生時代は共同生活で、皆で採れたものは皆均等に分け、「分かち合える価値観」でした。チャンプの皆さんで何か収入を得ることをしませんか？野村さんの千葉の家は、近くの農家の古材や家具が手に入り、工夫して生活用品にしています。そんな物でも紹介して収入を得ることも考えたい。

②(梅澤さん) 自分の人生は自分で切り開いてほしいから、自分の財産は、一括寄付したいと思っている。今までに人脈があるから、使ってもらおうことを考えている。

③(山本さん) 何かをしようとするには「まとめ役」が必要。その人が推進役になって、援助者が集まる。元気な100歳クラブのあるように。

④(山田伸代さん) 「THE 100-YEAR LIFE」の本より年齢相応の生き方にとらわれない。長く生きると自分の役割やアイデンティティ等何度も更新し、長寿社会は自由と多様性を持っている。新しい人脈を作ったり、新しいスキムを学び、健康を増進し、自分の再開発する時間としたい。…と提案

## ⑤皆さんとの討議

Champは「人の役にたきたい」ボランティアは沢山ある。シニア世代に的を絞って集まった、元気なシニアが居た、が今や、諸事が出来なくなってきた。

Champには個性がある人が集まり、夢を語る会だった。「人が人と会って元気になる」、日本人は「生きがい」を持っている、日常生活に喜びを持って集まりたい、等々

次回の日程とテーマ、スピーチ者は今後皆様に連絡します。

## 第1回日本をしてみる会「伊豆オートマタ美術館訪問」

篠崎克子

オートマタと初めて聞く語に好奇心にかられチャンプの仲間になり、友人と一緒に参加させていただきました。3月22日（月）23日（火）「風光る踊り子1号旅に出る」ことになり、男女各5名の一行10名車窓を楽しみつつ伊豆高原駅に11時半に到着しました。坂道の桜並木通りをお昼所天ぶら専門店まで健常者は10分で歩ける距離、それを私を含む新人2名は筋力の老化と体重オーバーが重なり前進いたしません。男性の方に荷物を持って手を引いていただいたのですが亀の如くでした。本当にご迷惑をおかけし、今の日本にこれほど親切な方がおられるのだと感嘆するほどのチャンプの方々でした。改めましてお詫びと御礼申し上げます。

昼食後は徒歩で10分ほどのところを私ども二人だけはタクシーを使って「野坂オートマタ美術館（西洋からくり人形収蔵館）」に行くことに。どのくらいの数の収蔵作品があるのか同わず不覚でしたが展示品だけでも50品はあると目星をつけました。18世紀と19世紀の黄金期と制作期も長く、ネジ式から精巧な技術へと探求され、時計職人からの進歩発展もあったそうです。「煙草を吸う男」「手回しオルガン」「はしご乗り」など優雅な楽しい動きと出会えました。これらは皆ハイテクを使わず電気ではなく手動でなされているのは驚きです。オートマタの制作者を支え注文するのは王侯貴族（マリアントワネットの名前もあつたか）で資産家階級の存在も大切だと感じます。夕食後ホテルの部屋での二次会、野坂美術館オーナーを囲み幹

事さん差し入れの飲物おつまみ楽しみながら、オートマタに魅せられた作品との出会い、多分世界で制作されなくなり修理技術者減少のなか経営運営上のご苦勞の一端も伺え、多岐にわたり学び多い二次会でした。

### 山笑ふ一期一会やオートマタ

（追記：新活動会「日本をしてみる会」の第1回は美術館館長である野坂会員と近畿日本ツーリストの山田会員の協力を得て実施されました。宿泊のヴィラージュ伊豆高原ホテルもスイートルーム仕様で広く、楽しめました。2日目は自由行動で、大室山や城ヶ崎海岸などそれぞれ楽しみました。企画をしてくれた山本代表、幹事の木下会員、藤原千恵会員にも感謝です。参加者の全員写真は表紙をご覧ください。写真下は、からくり人形の説明とデモをする野坂館長。 中林記）



## 「(仮称)産直農産物を楽しむ会」勉強会報告 中林由行

日時：3月2日（月）13：30～15：30

会場：港区生涯学習センター201号室

参加：チャンプ会員7名、安江さんのNPO3名、軽井沢関係2名  
講師：長崎智（軽井沢ファームヴィレッジ）

山岸征男（葉乃畑合同会社：自然農の堆肥の会社）

この会は中林と安江さんの間でこの2年ほど「産地の美味しい農産物を直接宅配して貰いチャンプの会員が楽しめるような活動会をつくれなにか」というやりとりをした結果、安江さんから「軽井沢ファームヴィレッジ（以下KFVと略す）」というところの農産物でやれるかもしれない、という紹介があり、勉強会（説明会）を開催することになりました。以下は要約です。

1. 長崎氏（写真）が運営しているKFVは畑が3600坪、水田が3200坪である。農作物の栽培方法には大きく分けると、農協が進めている①「慣行農法」（化学肥料や農薬を使い、現在の野菜清算の9割を占める）と②「有機農法」（化学肥料や農薬を使用しない、認められた有機資材は使用する）と③「自然農法」があり、KFVは自然農法を中心としている。

2. 自然農法は「不耕起（耕さない）」「無農薬」「無肥料」「無除草（雑草を抜かない）」を原則として、なるべく人の手を加えず自然にまかせて育てる。（自然農では岡田茂吉氏と福岡正信氏の二人の先駆者が有名です）

3. 現在市場に出回っている野菜は50年前の野菜に比べて半分くらいの栄養価になっていておいしさも半分である。その原因は化学肥料や農薬を多く使って大量栽培するからである。また畑で熟成させてから食べれば美味しいが未熟成で収穫して出荷するので味が落ちる。

4. 一般市場の野菜は生命力が低く長持ちせず早く腐ってくる。自然農の野菜は生命力が強く長持ちし、芯を水に浸けておけばまた芽を出してくる。栄養価が高く美味しい生きた野菜を提供



したいと思い自然農に取り組んでいる。

5. 雑草と同居させると養分を取られると思うかもしれないが自然農ではお互いに助け合って共生している。どうしても邪魔になる雑草は抜かないで根元で切り取る。抜くと地中に空洞ができて腐敗やガスの元になるのでよくない。畑を掘り返さないというのも同じ理由。

6. 土の表面を直接日光に当てないようにする。土の上を植物性堆肥で覆うようにする。枯れ葉、枯れ草でもよい。土の中に有機物をすき込んではいならない（例えば緑肥）、土の中で有機物が腐敗するので不可（刈り取った雑草で土の表面を覆うのは可）。

以上が長崎氏の話の概要ですが予想以上に衝撃的な内容でした。

（以下は講演を聞いた安江高亮会員の感想です）

長崎さん、ありがとうございました。自然農には興味を持っていましたが、土地からの収奪があるのに何故循環が成り立つのだろうという疑問がありました。ですが、本「土と内臓」を読み、長崎智さんの話を聞き、畑を見させてもらい、約一ヶ月野菜を食べさせてもらって納得がいったのです。植物の根圏は、微生物と植物が共生して無機から有機を生む生命製造工場のようなものだということです。多種多様な近隣の植物との情報と養分の交換があり得ることも科学的に解明されています。但し、気を付けなければいけないことは、確かに品質の違いはありますが、他の野菜は良くないんだ、ということではないということです。長崎さんも仰っていましたが、他のいろんな製品と同じで、優劣の問題ではなく選択肢の問題だということです。私は慣行栽培（化学肥料も農薬も使う）の野菜にも問題はないと思っています。昔と違って厳密な安全管理がされているからです。そして、有機栽培だから、自然農だからといって、必ずしも安全とも言い切れません。大事なことは自分で納得していただくことだと思います。

●7月に軽井沢ファームヴィレッジ訪問ツアーを実施します  
期日：7月13日（月）日帰り。新幹線で軽井沢、車に分乗して「発地市庭」で畑の視察、取れたての自然農野菜と地場肉でバーベキュー他（詳細はメールで知らせます）

## なくてはならない存在をめざして NPO法人「支援センターあんしん」樋口 功

、(チャンプ会員の樋口功氏は十日町で障がい者の就労とグループホーム設立などの自立支援を続けておられますが、このたび24周年となり記念式典とともに25期の新しい発展計画を発表しました。式典にチャンプの山本代表も出席し祝辞を述べました。以下は樋口代表のメッセージです)

私共NPO法人支援センターあんしんの計画発表会にご来賓としてご多用の中、埼玉県日高市からお越しくくださった、チャンプの会代表・山本儀子様をご紹介いたします。山本様とのご縁は、今から三十数年前にさかのぼります。私がTOTOリモデル研修でロサンゼルスを訪れた際、現地で建設コンサルタントとしてご活躍されていた山本様が、TOTOのコーディネーターとして私たちをご案内くださいました。あの出会いが、長く続く温かなつながりの始まりでした。

ご帰国後は、首都圏を中心に成熟世代の経営者の皆さまが集う「チャンプの会」を主宰され、趣味や学び、社会貢献をテーマに活動を広げてこられました。その折に、私も仲間として迎えていただき、今も大切なご縁として続けております。

また、22年前の中越地震の際には、組織を挙げて「あんしん」を支えてくださり、今でも深い感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の新規事業「にもプロジェクト」にも関心を寄せてくださり、チャンプ会員の皆さまから多くのご支援をいただいております。改めて心よりお礼申し上げます。

あんしんは本年度、創立24周年を迎えました。これまで私たちの活動を支えてくださった利用者の皆さま、地域の皆さま、そして日々現を支える職員の皆さまに、心より感謝申し上げます。

この冬、十日町は例年通りの豪雪に見舞われましたが、グループホーム、送迎、通所、就労支援など各部門が力を合わせ、利用者の暮らしと安全を守り抜くことができました。さらに、施設整備や除雪作業を担う高齢スタッフの皆さんの存在も、あんしんを支える大きな力となっています。

今年のテーマは「困難を力に変える精神」です。豪雪や障がいというハンディキャップは、確かに大きな試練です。しかし同時に、粘り強さや前向きさを育てる“地域の力”でもあります。私たちは、福祉だから暗い、大雪だから大変と捉えるのではなく、困難を乗り越える明るさと元気さを大切にしてきました。視察に訪れた方から「明るく活気があり、清潔な施設」と評価をいただいたことは、職員一人ひとりの姿勢の表れです。

就労支援事業では、「地域一番の幸せな働き場」を目指し、利用者のスキル向上と賃金アップに取り組んでいます。基幹事業であるトイレトーパー製造は20年以上続き、無料配達を通じて障がいのある方の働く姿を地

域に伝える役割を果たしています。福祉給食事業では「野菜たっぷりの日常食」が好評で、他施設や一般の方への提供も広がっています。

ランドリー事業は長年の赤字から脱却し、地域の宿泊施設への直接販売を強化することで収益改善が進んでいます。農福連携では、地域産コシヒカリの全国発送事業を開始し、福祉工場発の新たなブランドづくりに挑戦しています。

重度障がい者支援の拠点である施設では、地域で唯一の役割を担い、今後は重度対応型グループホームの拡充が求められています。グループホーム事業は、町の中心部に障がい者の住まいが集まり、地域住民と自然に共生する環境が整いつつあります。さらに今年は、高齢者や子育て世帯、外国人、保証人のいない方など、住まいに困難を抱える方々を受け入れる新たな共同住宅を開設しました。

また、あんしんでは高齢者雇用にも積極的で、80代のスタッフが元気に働いています。「働くから元気になる」という考えのもと、年齢に関わらず活躍できる場づくりを進めています。

地域創生活動としては、全国から支援者を募る取り組みを開始し、ふるさと納税を活用した応援チケットや、地域外との交流を生む新たな企画にも挑戦しています。資金力の乏しいNPOだからこそ、知恵と工夫で地域課題に向き合い、持続可能な仕組みづくりを進めています。

あんしんはこれからも、困難を力に変える精神で「なくてはならない存在」を目指し、誰もが安心して暮らせるまちづくりに取り組んでまいります。利用者の笑顔と職員の幸せを大切にしながら、地域とともに歩み続けます。

(写真：

上は樋口代表、中は社員の決意表明、下は継続者表彰)



## 活動会メモ

### 1. 英語を共に学ぶ会 (ZOOM)

● 1月24日に第283回

講師-増田美智子会員「世界各国で縁起の悪い言葉や動作」

参加者7名

● 2月28日第284回

講師-五十嵐起世子会員

「2月8日の衆議院選挙結果」

参加者8名

● 3月28日第285回

講師-村田重章会員「トランプ大統領について」参加者8名

詳細はHP参照 (幹事: 高橋嗣雄)

### 2. チャンプ・LINEの会

常時自由なトーク交換が行われています。(幹事: 手島達夫)

### 3. チャンプ散策の会

第8回を5月21日(木)に六義園で開催予定。(幹事は5名)

### 4. コーラスを楽しむ会

4月10日に第48回を実施。毎月第2金曜日の10:00~12:00に開催。(幹事: 中林由行)

### 5. 本音の会

2月6日に第5回をA-Forumで開催。詳細は本号5Pを参照。第6回は5/14(木)の予定。

(幹事: 神田 順)

### 6. ゴルフ愛好会

次回開催企画中。

(幹事: 森田宏次)

### 7. これからの暮らしを考える会

1月28日に第2回をJELAホールで開催。詳細は本号5Pを参照 (幹事: 手島達夫 安齊渥子他)

### 8. 日本をしてみる会

第1回が3月23~24日の「伊豆オートマタ美術館訪問」として開催されました。参加者8名、詳細は本号6Pを参照。第2回を6月15日(月)に「ソーラーシェアリング見学会」として実施予定。

(幹事: 木下義雄、藤原千恵他)

### ● 以下は現在休止中です。

### 9. 日本文化を語る会

### 10. 海外をしてみる会

## ■90歳を迎えた私の卒寿感

増田美智子



2月11日に90歳になって一番驚いているのは本人の私だと思います。チャンプ会員となりましたのが1998年でしたので、私はまだ62歳、今思いますと随分若かったのです。しかしその当時は「あゝ還暦を2年も過ぎてしまつて〜」と沈んでおりました。あれから30年近くの歳月が流れたのです。一光陰矢の如し！ 小学校に上がるまで虚弱児だった私が何故こんなに長生きできたのか不思議でなりません、ひとつ確かであるのは、無理が効かなかった事かもしれません。元気で動き回っている友達が羨ましかったのを憶えています。そんな私も中学生になる頃には抵抗力が付いたのか次第に丈夫になりお医者様のお世話になる回数も減りました。無事に成人できたのはやはり両親のお陰と存じます。あの戦中戦後の食糧難時代に、また現在のように抗生物質もなかった時代に、ひ弱な子を無事に育て上げてくれたのですから〜。長い年月の間には、特に家庭を持ってから様々に大変な事が起こりましたが、いつも2人の子供達の為にひるまず前向きな気持ちでいられたのは両親の生き方、考え方の影響が大だと思っています。良い友人達にも恵まれました。しかし残念なことに学生時代や会社員時代の友人達ももう多くは入院中や施設に入ってしまったり、彼岸の人となりました。元気でお喋りやメール交換、ライン交流可能な人は片手で数えられるほどになってしまいました。思い浮かんで来ますのは、子供時代の楽しいひととき。スキ焼の折りには普段何もしない父が嬉々として肉を焼き手順良く野菜を入れ美味しく焼き上げてくれ、母も楽しそうに見ていて幸せでした。末っ子の妹は私より6学年も下でしたが、幼児の頃から自分の意見をはっきり言っていて、羨ましい限りでした。

不思議なことに、若かった頃の夢(オペラ歌手になりたかった)の事などもはや思い出することもなくなってしまっていて、ただただ家族との楽しいときどきの事だけが頭の中を駆け巡ります。自分にも子供が2人恵まれ、当時住んでいた東久留米団地の広い構内をぐるぐると乳母車に乗せて、日曜には夫も加わり散歩したこと、水洗トイレの2LDK暮らし、役所出張所も西友ストアも産婦人科付きの診療所も商店街も敷地内に揃っていて正に、公団住宅申込み23回目にやっと当選した“天国”でした。母が大きなデパートの紙袋に詰め込めるだけの補給品を入れて両手に下げ、はるばる保土ヶ谷から何回助けに来てくれたことでしょうか！子供は2人とも結婚してくれたので、孫は合わせて5人おります。虚弱児だったババの孫たちにしてはラッキーなことに皆元気で嬉しいです。あとはひ孫？と思いますがまだその兆しなし。先日インスタグラムで、「私、100まで生きます！」と宣言して毎日のように動画投稿を始めた和服姿の美しい91歳女性を見つけました。82歳と91歳の洋装の見事な女性お2人も動画配信しておられます。そうですね、私も100迄生きてくれた母のDNAを受け継いだのか、まだ元気ですので、先日子供達(と申しまして2人とも還暦前後)に同じことを冗談半分に宣言してやりましたら、「覚悟してますよ！」などと申しておりました。妹にはいつも「順序間違えないように！」と言ってあります！

詰まらない事ばかりダラダラ書き連ねましたがどうぞお許し下さい。コロナパンデミックまで、英語を教えに行っていた公民館でのボランティア補修教室から昨春また頼まれ週1回だけ出かけております。その場所も私の住まいも駅まで3分、ひと駅の所なので続いておりますが、いつまで可能かは不明…です。このような次第で、「明日は明日の風が吹く」といつも励ましてくれた母の言葉を支えに生きております。あれ？これと似た言葉を確認あの有名なラストシーンで、スカーレット・オハラも言ってませんでしたか〜？(笑笑)(注:卒寿カラーの素敵なおファッションは娘さんからのプレゼントとのこと)

## ■チャンプ今後の予定

- 5/21(木) チャンプ散策の会「六義園散策とランチ」
- 6/15(月) 日本をしてみる会「ソーラーシェアリング見学会」11時小田原駅集合「小田原ファーム」の視察、説明、ランチ等
- 7/13(月) (仮称)産直の会「軽井沢ファームビレッジ」訪問

## ■関西支部例会の予定

- 6/18(木) 大阪天満橋 創作和食「文蔵」 17:30~

(上記予定の詳細については全会員にメールでお知らせします)

《編集後記》チャンプの活動会が活発になり報告を紙面に収めるのが大変という嬉しい悲鳴です。ホルムスシヨックとも言わなければならない問題が再認識されまじたね。日本もエネルギーや食料の自給自立と脱石油に最大の努力をする必要があるでしょう。(中林 記)